

◆司会

それでは、ただ今から、市長定例記者会見を始めてさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。記者の皆さん、市民の皆さん、お待たせをいたしました。それでは、会見を始めさせていただきます。昨日、国内でワクチンの接種が始まりました。昨日のニュースでは、もう、このワクチン接種開始で一色でありました。静岡市も今、目下目下、急ピッチで、その準備を進めております。

今日はその前に、話題としては、行政のデジタル化、これも今、全国的な課題でありますので、その第一歩を静岡市が踏み出したという情報を提供したいと思います。行政手続きガイドサービスを開始するということでもあります。来月の1日から、これをスタートさせます。コロナ禍によって、人との接触をできるだけ避けることを目的に、例えばテレワーク、キャッシュレス決済の普及等々、社会のあらゆる局面でデジタル化のニーズが高まっております。静岡市も市民の目線に立って、デジタル化という切り口で行政サービスを見直し、改善を進めていきます。新しいデジタル技術によって、例えば、市役所に手続きのためにわざわざ行かなくても済むようにしていくと、こういった市役所を今後、目指してまいりたいと思います。

その第一歩が、本日、ご紹介する行政手続きガイドであります。来月から4月にかけては、多くの市民の皆さんが、就職とか、進学とか、転居を伴ったり、人生の大きな転機を迎えて、そして、さまざまな行政手続きをする場面が多くなるかと思います。これらの手続きは、非常に煩雑であったり、面倒くさかったりするわけでありますね。どのような手続きが必要なのか、その人の状況、例えば結婚しているとか、子どもがいる、いない状況によって、手続きの仕方が違うため、自分に必要な手続きを探すのに一苦労、そんな体験をされた市民の皆さんも多いんじゃないでしょうか。私も、もとより、その一人でありました。そこで、今回、静岡市が新たに始める行政手続きガイドは、スマホとかパソコンを使って、お一人お一人の状況に、質問に簡単に答えるだけによって、スムーズに確認ができる、そんなサービスになっております。対象となる手続きは、人生のステージにおける8種類です。転出、転入、市内転居、結婚、離婚、氏名変更、おくやみ、出生、この8種類であります。これにつきましては、もう来月から24時間365日いつでも、自分に必要な手続き内容はこういうことだと簡単にチェック、確認することができます。こう言っても、なかなか具体的に分かりませんので、今日は、総務局ICT推進課の担当職員が簡単にデモンストレーションをいたしますので、ご覧いただきたいと思います。

◆ICT推進課

はい。ICT推進課です。前の画面、ご覧ください。こちらが行政手続きガイドになります。本日12時より使用が、仮運用版を静岡市のホームページにて公開いたします。これから、引っ越しの多い時期になりますので、転入を例にとってデモをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、この画面から転入を選択いたしまして、私の例をとって、ちょっとデモをさせていただきますと思います。例えば、「駿河区に転入します」といったときに、個人それぞれ手続きが違いますので、私の場合ですと、例えば、マイナンバーカードと運転免許証を持っていて、ここから転出手続きを行って、私の場合ですと子どもが2人おりますので、子どもがいるのか、いないのか、それでも、また、手続きが変わってまいります。例えば、私の場合だと小学校入学前の子どもと小学生がおりまして、小学校、転校いたします。さらには、保育施設を入所いたしますし、児童クラブへも入会を希望する、これで手続きがまた変わってきます。

さらには、個人ごとに条件が変わります。特に障がいをお持ちの方で、いろいろな手続きがあっても、なかなか行政の手続きというのは複雑で分かりにくいものですから、こういったものを簡単にチェックしてだけで、自分の手続きが漏れなく分かるような形になってまいります。例えば、静岡市で、手続き以外のところでも、普通自動車を持っていれば、その手続きが必要になりますし、それから土地家屋を所有していて、上下水道を使用する、さらには犬を飼っているか、飼っていないかでも手続きが変わってまいります。こういった手続き、どこでやったらいいのか、区役所だけでは、できない話になってきますので、そういった手続きのどこで、いつまでに、そして、何を持っていけばいいのか、こういったことが分かるような手続きガイドの導入を進めてまいります。デモンストレーションは以上になります。

◆市長

どうもありがとうございました。第一歩であります。これを来月1日から運用を始めて、そして、市民の皆さん、使っていただいて、その使い勝手もいろいろなご意見をいただいて、一緒になって改善をさらにしていきたいなというふうにも思っております。

そして、静岡型のデジタルサービスというものを追求していくつもりであります。今後は、日々進化していくデジタル先端技術と私たちの生活を融合し、より豊かな暮らしを実現する。これは、一昨日の施政方針の中でも強調しましたがけれども、いわゆるデジタルトランスフォーメーションを進めていくんだと、それをひとつ、コロナ禍ということのを逆に奇貨として、一気に推し進めいくと、そんなふうに持っていきたいんだ、前向きに持っていききたいというふうにも思っております。

本日紹介させていただいた手続きガイドを、新年度4月から配置するデジタル統括監の

下で、デジタル化施策の指針たる基本計画を定め、よりよい市民生活の実現のために、国としっかり連携して、全庁を挙げて取り組んでまいりたいと思います。

今日の話題、私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの案件につきまして、皆さまからのご質問をお受けいたします。社名とお名前をおっしゃってから、お願いをいたします。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問のほうをお願いいたします。

◆静岡第一テレビ

幹事社の静岡第一テレビです。よろしくお願ひいたします。初めに、4問あって、すいません、多くて恐縮なんですけれども、初めに、静岡市内では新型コロナウイルスの感染者が落ち着いてきましたが、一方で地方経済は冷え込んでいる状態が続いています。飲食業界へは、事業継続のため10万円の支援をし、独自の事業として決定されましたが、今後はコロナの影響を受けた幅広い業界で個人消費を喚起するための対策も必要になってくると思います。市長は、現在の感染状況を見て、どんな経済対策が必要な段階とお考えでしょうか。教えてください。

◆市長

後ろにも書いてあるとおり、私たちは、「いのち」も大切に、「くらし」も大切に」という二つのLifeで予算を作ったということでもありますので、いのちを守る取り組みとくらしを取り戻す取り組み、これをこれから、していくんだというふうに今、施策を進めております。

そういった中で現状を分析しますと、第二波の終息の後、いったん国と連動して消費喚起策、これを注力いたしました。一時、経済回復の兆しを見せていましたが、その後、第三波がやってきてしまったわけですね。そうすると、やっぱり私たちはいのちを守る取り組みを優先せざるを得ないという状況でありました。今もその状況に変わりはありません。そんな中で、しかしながら、県も警報を出したということで、かなりサービス業、どれだけ飲食店の方々が、もうSOSを送っていると、緊急要望もありました。そこで、そういう皆さんの生活を下支えしていくために、少しでもお役に立てただければと、エール静岡飲食業支援金、これを提案して、議会に昨日、認めていただきました。さっそく、明日から、この申請を始めます。一律条件を付けずに10万円を支給するという事業であります。どうぞ記者の皆さんには、この事業をPR、周知していただいて、市民の皆さんにはこれをご活用いただきたいと、重ねてお願いを申し上げます。こうした中、これからも状況を見定めていきたいなというふうに思います。経済対策のさらなる始め時ということも、判断を間違えずに打っていききたいなというふうに思っ

います。現状、おかげさまで、感染の拡大は、静岡市内では抑えられつつあります。これから、ワクチンの接種も始まります。暮らしを取り戻す取り組み、それを支える経済対策も力を入れていきたいと考えております。消費を喚起し、かつ市内の経済を循環するような施策、この判断のしどきですね、事業者の声も丁寧に聞いてまいりたいと思います。

その一つとして、昨日、静岡まつりの実行委員会が、「今年は静岡まつりやるぞ」という発表をしました。これを私達も協力していきたいと思います。これも経済対策の一環だと捉えております。感染防止対策は十分に施した上で、規模は縮小して静岡まつりを今年はやるんだ、という決断でありますので、そここのところは市民の皆さんにも、ご理解いただき、そして、それぞれ一人ひとりが感染拡大に気をつけながら、静岡まつりを楽しんでいただき、そして、それが地域の活性化になっていけばいいなというふうに思っております。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。今、ワクチンの話もありましたけれども、新型コロナウイルスの高齢者へのワクチンの接種が4月以降ということで迫ってきていますけれども、その準備の進捗はいかがでしょうか。また、現在ここが課題というところが、もし浮かび上がっているようでしたら、教えてください。

◆市長

恐らく市民の皆さんは、一番このことが関心事だと思いますし、タイムリーにご質問もいただきましたので、少し補足をして説明したいと思います。国と連動して、目下目下の準備をしております。集団接種と個別接種という二本柱であります。とりわけ静岡の場合は、医師会の協力を得られておりますので、かかりつけ医など地域で身近な医療機関、その本人にとってなじみのあるお医者さんのところで受けるような、そんな個別接種をできるだけ多く実施してもらうように、そんなことを今、医師会と協議を進めているところであります。

集団接種につきましては、会社の近くであるとか、土曜日、日曜日の休日にも接種ができる利便性の高い会場を確保して実施をしていきたいと思っております。プラスアルファ、足の確保ですね、「接種したいんだけど、その会場までなかなか行けないよ」と、「車がもう運転できないよ」という方もいらっしゃると思います。そこで、中山間地域も擁している静岡市ですので、巡回接種も積極的にこれを行っていきなというふうに思っています。

さらに、街中でも、なかなか会場までは行きづらいという市民の方々もいらっしゃると思いますので、こういう方々には、例えばタクシーを使ってくださいと、そのために、クーポン券を発行しますと、それは、先ほどの飲食店同様、タクシー業界の方々も今、

大変稼働率が低くて困っておりますので、経済対策にもなるでしょう。その両立をかけ、何とか市民の足を確保して接種したいという方々が、スムーズに会場に集まれるように、あるいはクリニックに集まれるように、行けるように、そんな下支えをしていきたいというふうに思って、今、準備中であります。一方、もう一つの課題は、その接種の登録をいかにスムーズにやるかということでもあります。事前予約が必要ですのでね。高齢者の方々もいらっしやいましょう。

先ほどの行政手続きガイドは、パソコンを操作して簡単にチェックするということが、パソコンやスマホに慣れていない市民の方々もいらっしやるでしょう。そこで、スムーズに接種の予約申込みをしていただけるように、電話での受け付け、これは専用の予約ダイヤル、こういったものを設けますので、電話で気軽に事前予約ができるようにしたいし、また、もちろんパソコンやスマホを使った専用予約サイトでの受け付けも準備しております。そういうことにつきましては、予約方法につきましては、これから市民の皆さんに接種券を郵送させていただきますので、そのチラシの中に、できるだけわかりやすく、簡単に事前予約ができるという方法について説明書といえますか、そういうものを添付していきたいというふうに思っております。

いずれにせよ、国が示すとおり4月から、65歳以上のご高齢の方々から接種が始まります。ぜひ、「わたしの、あなたの、みんなの“いのち”を守る」ということですから、接種していただきますよう、お願いを申し上げます。以上です。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。続いて、桜ヶ丘病院についてお伺いしたいんですが、現在も静岡市の土地であるJR清水駅東口公園に建設予定の新病院について、JCHOは設計のための入札を公示しました。今後は、所有権移転の手続きを進めていくと思えますけれども、等価交換だったりとか、現病院の土地の無償貸与などといった取得方法の協議というのは、どこまで進んでいるのでしょうか。教えてください。

◆市長

はい。分かりました。昨年12月に協定を結んで以来、先月、今月と実務的に、精力的に私どもの市の担当職員とJCHOの事務方で、そのあたりの交渉をしております。コロナ禍の中ですけれども、2度ほど東京のJCHOの本部に出向きまして、議論を進めているところであります。

具体的な進捗状況については、もう目下目下、交渉を進めているということでもありますので、しかるべき点、タイミングで公表させていただきたいというふうに思います。いずれにしても、スケジュール感としては、令和3年度中の着工に間に合うように調整していきたいというふうに思っています。

◆静岡第一テレビ

それは着工までに、もちろん取得方法も済んでということですよ。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆静岡テレビ

ありがとうございます。最後に、南アルプス公園線のトンネル工事についてなんですが、先日、請負業者が決定したというリリースをいただきました。残土処理の問題がクリアになっていない状態で、またリニアの本体工事は県が着工を認めておらず、見通しが立っていない状態です。道路トンネル工事は、J R 東海が進めるものなんですけれども、静岡市としてはどんな姿勢でいらっしゃるのでしょうか。教えてください。

◆市長

記者ご指摘のとおり、これは J R 東海が進めるものではありませんが、私たちは平成 30 年度に基本合意書を締結しておりますので、それに協力していきたいというふうに思っています。トンネル工事のご指摘の発生土ですね、発生土の処理についても、この合意に基づいて、市が候補地を示していき、最終的には J R 東海が選定するという段取りだと理解しております。すでに葵区の富士見峠周辺の市の所有地を含む複数の候補地を、市から J R 東海に提示しております。一部の候補地については、市と J R 東海が協力して現地調査もしてありますし、地権者の協議も行っておりますので、発生土の搬入に向けた具体的な調整、これから進んでいくものだと期待しております。

いずれにしても、このトンネルということは、リニアのための工事の車両が通ることと同時に、井川の方々が静岡市と合併して 50 年という節目のときに間に合わせるような、われわれも市街地に早くアクセスできるような、そういう悲願のトンネルでありましたし、また、上から下に下ってくるだけではなくて、今までは本当に、もう、急カーブと狭い道で、もう本当に揺られ、揺られて、あそこに着くまでが難行だったわけですけれども、コロナ禍が終われば、必ず市内外からのお客さん、観光需要、インバウンドも増えてくると思います。下から上に、このトンネルを活用して、静岡市が誇る観光リゾートです。南アルプスエコパーク、井川地区というのは本当に心癒される空間でありますので、そういう下から上にアクセスしやすくなるというトンネルとしても、これ、地域振興のために期待したいというふうに思いますので、発表があったとおり、令和 8 年 3 月、今から 5 年後ですね、その工期内の完成に向けて、着実に工事を進めていただくことを期待しております。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連したご質問を、まずはお受けしたいと思います。
SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

お世話になります。今の南アルプス公園線のトンネルに関してなんですが、複数の候補地を今、提示して地権者との協議も進めているということなんですが、この土地というのは残土の仮置場になるのでしょうか。それとも、最終的な処分地になるのでしょうか。

◆市長

少し実務的に後で補足をしてもらいますけども、それを目下目下、いろいろ切り口をもって議論、調査を進めているところであります。少し補足をお願いしたいと思います。

◆中央新幹線関連道路担当課長

道路計画課の中央新幹線関連道路担当課長の尾焼津といいます、よろしく申し上げます。今、準備工の段階では、ストックヤードを活用するということで、仮置場を活用した事業の展開を考えておりまして、今、提示しているのは最終的な処分、処理する先を提示させていただいております。

◆SBS

そうしますと、今の複数箇所というのは、最終処分地としての複数箇所の提示という理解でよろしいですか。

◆中央新幹線関連道路担当課長

そうです。

◆SBS

それが富士見峠周辺もその一つということになるのでしょうか。

◆中央新幹線関連道路担当課長

そうです。

◆SBS

ストックヤードの活用、その後の活用も踏まえた処分地ということなんですけれど、どんな活用というのを見据えていらっしゃるのでしょうか。

◆中央新幹線関連道路担当課長

今までも、お話しさせていただいたように、当然、後表面利用なんかも考えて、道路改良に使ったりだとか、いろんな活用をしていくところを検討しております。

◆SBS

分かりました。ちなみに、その発生土の安全性とか、その辺りはどういう管理方法になっていますか。

◆中央新幹線関連道路担当課長

今のところ発生土の地質調査の結果では、確認はされていないんですけれども、掘削の進捗に併せて確認のほうをしていきたいと思っております。

◆SBS

今のところ危険なものが出るということは確認されていないと、今後も引き続き調査していく。

◆中央新幹線関連道路担当課長

はい。

◆SBS

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

ワクチンの接種体制についてお聞きします。まず、確認ですけれども、静岡市としては、個別、集団、巡回の3パターンで接種を考えているということよろしいでしょうか。

◆市長

はい。

◆テレビ静岡

その中で、先ほどおっしゃった足の確保というところの巡回接種についてなんですが、先ほど、市長、中山間地の人のためにということをおっしゃっていましたが、例えば、街中の高齢者施設であるとか、そういった、なかなか、かかりつけ医だったりとか、集団接種会場に行きづらい方、先ほどタクシーの活用というのがありましたけれども、高齢者施設等には巡回接種を行う予定というのはないのでしょうか。

◆市長

そうですね。その組み合わせであります。タクシーのクーポン券をどのような形で利用していただけるか、ということも今、検討しております。

◆テレビ静岡

じゃ、そのタクシーの活用も含めて、高齢者施設に巡回接種をしに行く、ということも検討している。

◆市長

はい。つまり、どういう方法かは別にしても、とにかく中山間地を含めて、街中の方も含めて、とにかく接種したいという希望者に対して、その接種場所までスムーズに行けるアクセスを下支えしていくという発想で準備をしています。

◆テレビ静岡

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

よろしく申し上げます。今回のワクチン接種の集団での接種で、お医者さんはどれくらい必要なのかという、おそらく、もう試算はしていらっしゃるんじゃないかなと思うんですが、その人数は大体どれくらいのスケールになりそうだというふうに、はじいていらっしゃるのか、お聞かせください。

◆市長

はい。これは、担当から答えさせてもらいます。

◆保健予防課長

保健予防課です。集団接種につきましては、静岡市としては、あくまでも個別接種を基本にさせていただきたいということで、できるだけ地域の医療機関で受けていただきたい、それを全て 100%できないと思いますので、補完する意味で、集団接種会場で実施したいと考えております。先ほど市長が申し上げたとおり、現在、医師会と個別接種をやっていただける医療機関を今、確認中でございますので、その数字が確定しましたら、集団接種の会場数が確定すると、そうすると、その会場に必要な医療従事者人数が確認できるという形になっております。ただ、集団接種会場の医療従事者につきましては、市内の公的病院、公立病院の医療従事者、並びに医師会のほうから、ご協力をいただくことになっております。以上です。

◆朝日新聞

もう国のほうでも始まっていますし、来月にも動きがどんどん加速化すると思うんですけども、大体何箇所ぐらいで行うのかというふうな、おおよその数字というのは分かりますでしょうか。

◆保健予防課長

はい。現時点では、11 施設 12 会場で予定しております。

◆朝日新聞

そうすると、一会場、大体平均何人ぐらいの医者を配置するようなイメージでしょうか。

◆保健予防課長

いわゆる一会場、レーン数ですね、何レーン出るかにもよりますけれども、1レーンですとドクターが2人、看護師が2人という体制を予定しております。

◆朝日新聞

ドクター2人？

◆保健予防課長

ドクター2人。

◆朝日新聞

そうすると、これ要するに計算を積み上げていくと、何人ぐらいという計算になりますかね。

◆保健予防課長

会場によってレーン数が、大きさによってレーン数が変わってきますので、ちょっと、その数字、今すぐ持ってないんですけども、1レーンだとしても、12会場ですので、24人最低は必要です。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

たびたび申し訳ありません。もう一問、質問させていただきますが、経済対策の件なんですけれども、先ほど市長、暮らしを取り戻す経済対策をやっていくと力強くおっしゃっていましたが、その例として、静岡まつりの例ですとか、タクシーのクーポン券の例を挙げてらっしゃいましたが、具体的に暮らしを取り戻す経済対策というのは、どういうところに特に視点を持って、そういった祭りだとか、タクシークーポン券もそうですけど、特にどういうところに注目して、そういう対策を打っていく形になりますか。

◆市長

今までは、とにかく下支えをしていくために現金給付というシンプルな形で経済対策を行ってきましたが、これからはそうではなくて、ターゲットを絞って経済対策を打っていくという、政策的な熟度を上げるということが大事だろうと思います。

例えば、今、飲食店がデリバリーサービスを始めております。これは、コロナ禍が終わってもそういうようなことは残っていくと思うんですね。ですから、そういうところに着目して、子育て中のご家庭を対象にして、デリバリーサービスを使ってください、そのためにクーポン券を発行します、というふうにやってみたり、そういう政策的な熟度を切り口をシャープにする中で練り上げていきたいなと思っています。

◆SBS

そうすると、まだまだ困っている業種というのは幅広くあると思うんですが、そういうのを、それぞれ一つ一つやってくというイメージ？

◆司会

そうですね。もう際限がないと思います。先日、これ、報道していただいて、大変ありがたかったですけれども、しずチカですね、北口の、あの地下スペース、あそこはものすごく通行量が多い魅力的な販売空間ですので、これは規制緩和をして商売をやらせようと、バレンタインという絶好の機会がありましたので、そこにお花屋さんの方々に呼びかけて、そして、バレンタインに花を贈りましょうという販

売キャンペーンの下支えをさせていただいたわけであります。

業界によって、それぞれ大変な状況は違っておりますけれども、そういう要望に応じて、そんな環境を行政でできることは作ってまいりたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他、朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

よろしくお願ひします。ちょっと、お話が変わるんですけども、五輪についてで、橋本大臣が五輪組織委員会の会長を要請されているんですけども、その橋本大臣についての市長の受け止めといいますか、お考えと、あとは鳥取県知事が聖火リレーの中止検討を表明したんですけども、それについての受け止め、どう思うか教えてください。

◆司会

先に幹事社関連の質問は、その他よろしいですか。

◆市長

どうもありがとうございます。まず、橋本オリンピック大臣に今、白羽の矢が立っているということを私は見守りたいと思います。とにかく世の中のムードを前向きに明るくしていきたいという中では、オリンピックというのは重要な要素だろうと思います。それは、市民や国民の思いというものがあろうかと思ひますけれども、そこは私たちは、静岡まつりもそうですけれども、何か一つのきっかけが欲しいな、ということを期待しています。

◆静岡朝日テレビ

聖火リレーの中止検討についてはいかがでしょうか。

◆市長

それは、その地域、地域の状況に応じた判断だろうと思います。

◆静岡朝日テレビ

ちょっと仕方がないかなという受け止めですか。

◆市長

どうでしょう。どう思います？

今は大同団結して、みんなで頑張ろうというふうに、私は呼び掛けたいですけどね。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他、ご質問ありますでしょうか、いかがでしょうか。その他のご質問もよろしいでしょうか。それでは、以上で市長の定例記者会見を終わらせていただきます。次回は3月12日です。本日はありがとうございました。